製法
　本品は、ヨウ化ナトリウム（^{131}I）を精製した後、液剤の製法により製する。
性状
　本品は、無色澄明の液である。
確認試験
⑴　本品について、ガンマ線測定法のGe半導体検出器による測定法により試験を行うとき、0.364 MeVにピークを認める。
⑵　純度試験⑵により確認する。
pH
　7.0～10.0
純度試験
⑴　担体　本品0.1mLに水６mLを加え、塩化鉄（Ⅲ）試液２～３滴及びトルエン１mLを加えて振り混ぜた後放置するとき、トルエン層は無色である。
⑵　放射化学的異物　ヨウ化ナトリウム0.5ｇ、ヨウ素酸ナトリウム1.0ｇ及び炭酸水素ナトリウム5.0ｇに水を加えて溶かして100mLとした液１滴を担体として、75vol%メタノールを展開溶媒として、ろ紙クロマトグラフィーにより約15㎝展開して試験を行うとき、ヨウ素酸塩のスポットの放射能はヨウ化物のスポットの総放射能の５%以下であり、ヨウ化物及びヨウ素酸塩のスポット以外の部分に放射能を認めない。
　なお、ヨウ化物及びヨウ素酸塩のスポットは、担体を試料として同様に展開を行い、次の操作により確認する。
　展開したろ紙を乾燥し、ガラス管に入れて１～２分間硫化水素を通じた後、フルオレセインナトリウム溶液（１→1000）を噴霧し、更に塩素試液を噴霧するとき、ヨウ化物及びヨウ素酸が呈色する。展開したろ紙に硫化水素を通じないでフルオレセインナトリウム溶液（１→1000）を噴霧し、更に塩素試液を噴霧するとき、ヨウ化物のみが呈色する。
定量法
　本品の適当量について、ガンマ線測定法の放射能の定量により放射能を測定する。
37　ヨウ化ナトリウム（^{131}I）カプセル
　本品は、カプセル剤で、ヨウ素131をヨウ化ナトリウムの形で含む。本品は、定量するとき、検定日時において、ヨウ素131の表示された放射能の90～110%を含む。
製法
　本品は、「ヨウ化ナトリウム（^{131}I）液」を採り、カプセル剤の製法により製する。
確認試験
⑴　本品１個又は本品１個を適量の温湯に溶かした液について、「ヨウ化ナトリウム（^{131}I）液」の確認試験⑴を準用する。
⑵　純度試験⑵により確認する。
純度試験
⑴　担体　本品１個を温湯６mLに溶かした液について、「ヨウ化ナトリウム（^{131}I）液」の純度試験⑴を準用する。
⑵　放射化学的異物　本品１個を適量の温湯に溶かした液について、「ヨウ化ナトリウム（^{131}I）液」の純度試験⑵を準用する。この場合において、「ヨウ素酸塩のスポット以外の部分に」とあるのは、「ヨウ素酸塩のスポット以外の部分については、原点にわずかに放射能を認めることがあっても、その他の部分に」と読み替えるものとする。
定量法
　本品１個又は本品１個を適量の温湯に溶かした液について、ガンマ線測定法の放射能の定量により放射能を測定する。
38　ヨウ化人血清アルブミン（^{131}I）注射液
　本品は、水性の注射剤で、ヨウ素131をヨウ素化された人血清アルブミンの形で含む。本品は、定量するとき、検定日時において、ヨウ素131の表示された放射能の90～110%を含む。
製法
　本品は、人血清アルブミン１グラム分子（約69000ｇ）当たりヨウ素１グラム原子以上を入れないように、人血清アルブミンをヨウ素131を用いて、穏やかにヨウ素化し、未反応のヨウ素131を除いて精製した後、注射剤の製法により製する。
性状
　本品は、無色～淡黄色澄明の液である。
確認試験
⑴　「ヨウ化ナトリウム（^{131}I）液」の確認試験⑴を準用する。
⑵　本品及び人血清アルブミン溶液（１→100）をそれぞれバルビタール緩衝液（pH8.6、イオン強度0.075）を用いて、適当な条件下でろ紙を用いる電気泳動法により試験を行う。ニンヒドリンのエタノール溶液（１→1000）を噴霧して呈色させ、また、放射能を計数するとき、本品の放射能のスポットは人血清アルブミンと同様の泳動像を示す。
pH
　7.0～8.5
純度試験（放射化学的異物）
　ヨウ化ナトリウム0.5ｇ、ヨウ素酸ナトリウム1.0ｇ及び炭酸水素ナトリウム5.0ｇに水を加えて溶かして100mLとした液１滴を担体として、75vol%メタノールを展開溶媒として、ろ紙クロマトグラフィーにより約15㎝展開して試験を行うとき、原点付近の放射能はろ紙上の総放射能の95%以上であり、ヨウ化物のスポットの放射能はろ紙上の総放射能の３%以下である。
　なお、ヨウ化物のスポットは、デンプン試液、希酢酸及び亜硝酸カリウム試液をそれぞれ均等に噴霧したときの呈色により確認する。
定量法
　「ヨウ化ナトリウム（^{131}I）液」の定量法を準用する。
39　ヨウ化ヒプル酸ナトリウム（^{131}I）注射液
　本品は、水性の注射剤で、ヨウ素131を２―ヨウ化ヒプル酸ナトリウムの形で含む。本品は、定量するとき、検定日時において、ヨウ素131の表示された放射能の90～110%を含む。
製法
　本品は、２―ヨウ化ヒプル酸のヨウ素原子をヨウ素131で置換させ、未反応のヨウ素131及び遊離したヨウ素を除いて精製した後、注射剤の製法により製する。
性状
　本品は、無色澄明の液である。
確認試験
⑴　「ヨウ化ナトリウム（^{131}I）液」の確認試験⑴を準用する。
⑵　純度試験により確認する。
pH
　7.0～9.0
純度試験（放射化学的異物）
　１―ブタノール／酢酸（100）／水混液（４：１：１）を展開溶媒として、薄層クロマトグラフィーにより約８㎝展開して試験を行うとき、２―ヨウ化ヒプル酸（^{131}I）のスポット以外の放射能は薄層上の総放射能の５%以下である。